

令和6年度 第1回 長門市環境審議会 会議録（要約版）

日時：令和6年5月24日（金） 10：00～11：30

場所：長門市役所4階 会議室1・2

出席者：市長、委員13名（欠席4名）、参考人(事業者) 11名
事務局6名

1 開 会

2 市長あいさつ

3 （新任）委員・事務局紹介

新任委員2名を紹介

山口県長門健康福祉センター保健環境部副部長 堀切 裕治

日置地区自治会連絡協議会会長 池永 道禎

4 諮 問

（仮称）新白滝山風力発電事業 環境影響評価方法書について

諮問書を長門市長から橋本会長に対して手交

5 審議事項

（仮称）新白滝山風力発電事業 環境影響評価方法書に対する意見について
事業概要の説明について

※事業者「J R東日本エネルギー開発（株）」から説明

質疑応答

※各委員から事業者に対して質疑

6 その他

※次回、6月下旬頃に開催予定（本日の審議会意見を取りまとめ、答申案検討）

7 閉 会

【主な質疑等】

(1) (仮称) 新白滝山風力発電事業 環境影響評価方法書について

ア 意見及び事業者見解

	発言内容
A 委員	現在稼働中の風力発電事業について、鮎や青のりの漁獲量が激減した等の風評被害が激しいと聞く。データ等を使用して、皆が納得できる説明ができないものか。
事業者	過去の公的データなどから、稼働中の風力発電所の建設前後で栗野川の水環境の悪化は見られていない状況である。また、地元漁協等の関係者にヒアリング等を実施したところ、水環境が悪化したのは事業開始前からのものであると聞いております。なお今後の環境影響評価における水質の調査、影響の予測、環境保全措置の検討を十分に行い、栗野川・大坊川へ流入する前に水質が維持できるよう努めます
B 委員	水質調査地点 WP 1 について、蓋の井川流域の栗野川との合流部直前に設定してあるが、WP 1 の上流には砂防堰堤があり、沈殿池（沈砂池）としての効果が予想される。堰堤より上流にも調査点を設定し、モニタリングするべきではないか。
事業者	採水が困難な箇所等があるかもしれないが、可能な限り検討する。
B 委員	要約書には、河川・湖沼及び地下水の利用の状況について、現況が記述されているだけで、どういう団体が、どこで、どのように利用しているのかが示されていない。もっと明確で詳細な記述にしてほしい。また漁業権更新により漁業権番号が変更されている。図書の発行月の関係もあると思うが、更新した方が良い。
事業者	本編には水利用、漁業権等について記載している。地元漁協等と連絡を密にし、漏れなく詳細に記述できるよう努めます。また漁業権の更新については、準備書にて最新の情報に基づき資料の更新を行います
S 委員	水質調査地点の選定については、適切であると思うが、調査回数について、平水時は構わないが、降雨時については、調査のタイミングによって数値が激変するため、できるだけ複数回、できれば連続的なデータでの検証を求む。
事業者	降雨時の採水について、想定では1日に3回採取を行い、濁りのピークを含め把握する予定としていたが、可能な限り複数回（連続）のデータで検証できるよう検討します。
C 委員	栗野川は、昨年氾濫しており、現在も JR が不通の状態です。 設置予定箇所には、特に保水力の高いブナ科の群生が目立つ気がしますが、保水力の低下についてはどう考えているのか。
事業者	この地域における保水力について、明確に示す文献がないが、保水力に影響が大きいのは山地中腹や谷部であり、尾根部ほど降雨時の保水力には影響が少ないと考えています。影響の大きい中腹や谷部の伐採を極力避け、そのうえ全体の伐採面積を最小にできるように計画します。 なお、栗野川の流域面積は非常に広く、他の支川からの流入も想定されるため、当事業に限定した因果関係としては微少であると考えます。

C 委員	事業終了後、確実に撤去および原型復旧できるのか。 将来的に採算性が悪化し、資本が外資に移っているようなケースも全国的には見受けられるが、なにか担保できるような仕組みはあるのか。
事業者	外資に売却することは、全く考えていません。 親会社が鉄道であり、電車が存続する限りは電力の需要もあり、何ら担保にはなりません。信用していただきたいとしか申し上げられません。 撤去費用については運転開始の日から計画的に積み立てる予定としております。
C 委員	人口の減少により電力の使用量は低下するのではないか。
事業者	確かに人口は減少傾向にありますが、膨大なデータ計算が必要な生成 AI（人工知能）の利用拡大により、電力の消費量はむしろ増加すると見込んでいます。
S 委員	暗騒音の設定について。現在既存の旧風車が 20 基あるが、設定上既存風車の騒音をどう扱うのか。住民に対する説明としては「今とどう違うのか」がポイントであり、理解も得られやすいように思うがどうか。
事業者	ご指摘のとおり、既存の風車が稼働していることが想定されるため、暗騒音をどのように把握し評価すべきか悩ましいところであります。 ご意見を参考にしながら最善の方法を模索していきたいと考えております。
D 委員	油谷地区としては、反対の意見が根強い。 自然環境が売りのこの地域で、自然を壊してまで住民が享受できるメリットが見えない。
S 委員	もっともな意見だと思う。配慮書の段階からある程度の住民側のメリットを含んだ計画を示すことができれば事業がスムーズに進むと考えられる。
事業者	現状まだ詳細な設計ができていない段階で確実なことは言えない。 こういった形で地元貢献ができるか、設計を煮詰めていく中で提案していきたい。